

課題番号： 7

テーマ名称：小規模農家の農業生産と収入向上

1. 主な対象国・地域	アフリカ地域
2. 分野	農村開発、農業普及
3. 関係する SDGs ターゲット	ゴール 1、2、5、10 (特に 2.3 2030 年までに、土地その他の生産資源、投入財、知識、金融サービス、市場、および付加価値や非農業雇用の機会への平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民族、小規模な家族経営の農家、牧畜家および漁師をはじめとする、小規模食糧生産者の農業生産性および所得を倍増させる)
4. 対象国・地域の当該分野の全般的な現状	小規模農家は市場のニーズを知ることなく、かつ栽培技術や知識が乏しい中で農産物を生産しているため、収入向上につながらず、貧困から脱却する機会を逸している。
5. 解決すべき課題	小規模農家の主体的な農業生産と収入向上
6. 上記をとりまく状況	公的農業普及員は、国によってはその人数・能力に限界があり(公的普及員の制度がない国もあり)農家の技術力向上、主体性向上を通じた着実な生産・販売には民間の支援が必要である。
7. 活用が想定される技術・製品・ビジネスモデル	小規模農家の農産物生産に資するサービスまたは肥料、種子など(これらを販売する販売員が SHEP ¹ を活用した農業普及を行い、農家の技術と主体性を醸成する) その他 SHEP の活用を通じて連携が期待できるサービス、製品(マイクロクレジット等の小規模農家金融サービス、天候インデックス保険等)
8. 主要関連政府機関・ステークホルダー	農業省普及局、自治体等
9. 当該国・課題に対する日本政府・JICA の方針・戦略・(所在 URL を	TICAD V において、安倍首相が「食べるためから稼ぐための農業支援への変換」を言及。公約したアフリカ 10 か国、1 千人の技術者・関係者の能力強化と 5 万人小規模農家への普及は達成済。現在 JICA は、園芸作物以外を対象とした農業普及事業、および JICA 以

¹ Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion: 小規模園芸農家支援のアプローチであり、野菜や果物を生産する農家に対し、「作って売る」から「売るために作る」への意識変革を起こし、営農スキルや栽培スキル向上によって農家の園芸所得向上を目指すもの。

<p>含む) 関係する ODA (JICA) 事業、他ドナー情報</p>	<p>外の事業における SHEP の導入を通じた SHEP の「ふつう化」を推進し、100 万人への SHEP 展開を目指している。</p> <p>現在、農業系の国際機関や民間支援団体も SHEP アプローチへの関心を高めており、それぞれの事業で連携する動きが加速化している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アフリカ各国に対する事業展開計画 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/index.html#section1 ・ JICA 開発途上国課題発信セミナー 農業 https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/news/ku57pq00002jdrb9-att/20190313_03.pdf ・ JICA 農業・農村開発に関するポジションペーパー https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/ku57pq00002cubgq-att/position_paper_agricul.pdf ・ SDG ポジションペーパー ゴール 2 https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/ku57pq00002e2b2a-att/goal02_j.pdf
<p>10. 留意点・リスク</p>	<p>民間企業の普及（販売）員と小規模農家の関係が、Win-Win である必要がある。（小規模農家の主体性を損なわない活用が大前提）</p>
<p>11. その他、参考情報</p>	<p>SHEP アプローチについて https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/shep/index.html</p>

※科学技術イノベーション（STI）を含む新しい技術の活用の積極的な提案を期待しています。

【STI (Science, Technology and Innovation)】

科学的な発見や発明等による新たな知識を基にした知的・文化的価値の創造と、それらの知識を発展させて経済的、社会的・公共的価値の創造に結びつける革新。アフリカでは、モバイル技術等を活用した革新的なサービスも急速に普及してきており、課題解決及び SDGs 達成のツールとして STI の活用が期待されています。革新的な技術により、これまで開発の成果が届かなかった人、場所に開発の成果を届けることができたり、革新的な効率化や質の向上を図り、時間的、費用的にコストを大幅に引き下げるなどの効果が見込まれます。